

忙しない街の・・・
一日の終わり　夕
焼けの下の木の本
ンチ　夜に向けて

忙しく回る街はポケットの中の波にも
飲まれ、

距離が離れた隣街の辺りまで同様に、白い雲が浮かぶ空の下激しく動いている。

ポケットと一緒に街を歩く人たちは猛スピードに飲まれ、

汗、肘と足同様にスーツも。

太ももにも汗が流れ・・・。

ゆっくりとした時間の動きを忘れるようなビルとガードレールの区域。

そしてこの日も終わり丘の上の小さな木のベンチの上。

数人の青年たちが女子人妻たちと一緒に遠いようですすぐそこにある街を見下ろしていた。

一息・・・空を見ながら全くイメージがないわけでもない。タブレットにも感謝しながら景色をなんとなく見ている。

一日と空はそれでもまだ大変な事態で、
小高い丘の上のベンチの上には雲が流
れ、

同時刻に別の場所下では一人のサラリ
ーマンがポケットからタブレットを取
り出して次の予定を確認している。

• • • • ○

タブレットの中と下着の連(つら)なり。
丘の上ではまだ残っている。

それほど関連があるわけではないが現実。

夜に向けて・・・街中ではオフィスビルの中の繁忙とカフェテラスでの小さな会議。

打ち合わせと夜。

女子たち人妻たちは、たまに休憩を挟み
つつ廊下エスカレーター前の鉢植
え・・・その辺りで渦のような何かを感じ
る。

そしてごく自然なプラスチックのおつ

まみが入ったケースをひと箱開いてまたもとの場所に戻る。

暗い電灯は夜になればまた点灯するが、ひとまず丘の自然の上で夕焼けの鉄棒とブランコ、

ポケットにW i - F i を入れて・・・。

揺れるブランコに朝の冷たい霧の滴が
少し垂れている。

まだ微妙で降っているか分からない程
の小雨の中、女子たちは比較的大きめの

バッグを持って何度も・・・また次の日の小さな闇へ戻る。

緑や遊具景色。自然と夜の境目。

一幕もその次も、街のその手前ですぐ近くにありそうで果てしなく遠い肌色の

夜。

下りた道路の近くにはいつもと変わらない平穏な街並。木々とビルがあり行き交う自動車。夜、高台から見下ろした電灯は消えている。

それは現実の境目と海や川の比較のよ

うでもある。

ポケットW i - F i は白黒の闇とシャ
ワールームのカラダを持ち合わせてい
る。

境界線の向こうはまたそれはそこまで
で別の世界があり、山、夜を越えてハダ
カと一緒にゆったりとした上り坂は続
いていく。

夜のベンチに座って見下ろした街
は・・・タブレットにも見えた。

抱き合い口づける隣には空き缶と下着。

すぐそばの夜。

すぐ横には小さなスポーツがひと段落した後の肌色と汗、そしてその上の木の葉が見える。

夜の街の景色は煌びやかでネオン明るくそのはるか向こうにビルや店の並び

が見える。

タブレットの横に先日家電ショップで
購入した白いイヤフォンがついており、

（体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました）